

中途半端な気持ちじゃ、  
結局なにも得るものはないと思うな。



# MY WAY MY LIFE STORIES



山崎 一夫さん  
山崎バランス治療院経営  
早稲田医療専門学校 東洋鍼灸学科卒業  
東京都立玉川高等学校卒業

現役時代の山崎さんは、華美な演出は似合わず、その肉体だけで登場するのが最も様になる、そんなぼくとつとした男の魅力があった。

レスラーをやっていたから、今の僕がある。  
やりたいことを精一杯やってきたから、  
何一つ人生にムダはない。

「いってみれば、僕の現役時代の仕事は相手の身体を痛めつけることだから今は罪滅ぼしのつもりで患者さんに接しています」

山崎一夫、愛称「山ちゃん」。引退試合が東京ドームで行われたほど人気のあるプロレスラーであった。その山崎さん、野武士のような風貌は変わらないが、今は東洋医療の先生だ。

「僕がまだ練習生のときです。前田日明さんに全体の治療院に連れていかれました。たいした効果はないと思って行ったのですが、一回の治療で僕の頑固な腰痛がほとんど消えた。以来、その治療院の先生が僕にとっては師匠のような存在になりました。それが僕と東洋医療の出会いなんです」

レスラーは屈強だが故障も多い。ケガの予防のために、山崎さんが東洋医療を学ぼうと決意したのはメイニベンターになってからだ。

「みんなケガに悩んでいましたが、専属の先生を雇うほど金銭的な余裕はありません。それなら自分で学ぼうと思ったのが早稲田医療専門学校に入学した動機です。でもね、最初は学校に行く必要ないと思っていた

んです。試合の巡業のたびに全国の評判のいい治療院に通っていて、先生に現場のことを教えてもらっていたからです。そこで全体の師匠に相談したら「バカヤロー」って叱られました。医者と対等に渡りあうには学校へ行かないとダメだったね。早稲田医療専門学校は本当にいい学校で、人体のさまざまなことを学びました」

ところが、授業が進むに連れ、山崎さんでさえ怖くなることがあった。「僕はレスラーですからね、人間の弱点や狙いどころは知っています。しかしその理由は理解していません。例えば頭部のある部分に打撃を加えると、足から崩れていくといったことです。身体のしくみを理

解すると崩れる理由がわかるので、試合をするのが怖くなった時期があります」

現役を退いた今、山崎さんは患者さんの痛みと勝負している。

「思えば、僕は中学生でプロレスラーを志したとき、一生は一回しかないと強く意識した。常に目標を探して、その目標のために全力投球してきた。今も同じです。僕は痛みのも辛さをよく知っているから、一日でも早く患者さんの痛みと勝負をつけたいんです。『次は何日にいらしてください』と患者さんに言うことがなければ一番いいですね。精一杯やらないで後悔するなんて、僕は絶対したくないからね」

自然体

山崎一夫

身体バランスが悪いと強くなることはできない、と若いときにたたき込まれた山崎さん。自然体とはもともとバランスのとれた状態だ。